



2014

IYOTETSU
COMPANY PROFILE

会社案内



続けます 安全・安心 あしたのために

 **伊予鉄道株式会社**

それは、125年を越えて受け継いできた想いです。

地域の発展を願う想い。それは明治20年の創立以来、受け継いできたものであり、未来を見つめる私たちの基本姿勢です。地域の皆様とともに、これからも伊予鉄グループはチャレンジを続けていきます。

経営理念

伊予鉄グループは、
安全で良質な
サービス・商品を提供し、
地域とともに歩み、
ともに発展します。

行動規範

誠実・和・奉仕

CSR推進キーワード

ひと・まち・環境

- 「ひと」に信頼され、「ひと」に満足を提供する
- 交通という側面から「まち」に寄与する
- 未来を変える「エコ」を推進する

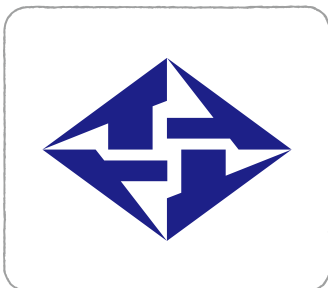


CONTENTS

沿革	3
経営	5
鉄軌道事業	7
バス事業	9
進化する「電車・バスサービス」	11
「ひと・まち・環境」にやさしい公共交通を目指して	13
付帯事業	15
伊予鉄グループ	17

コラム1 社紋「いびし」の由来	1
コラム2 木材を運ぶ起動力として 誕生した鉄道	3
コラム3 野球拳のはじまり	6
コラム4 石手川橋梁・煉瓦橋	8
コラム5 四国八十八ヶ所今昔	10
コラム6 伊予十五万石の松山城	16
コラム7 伊予鉄道発祥の地「松山市駅」の足跡	21
コラム8 現存する坊っちゃん列車	21
コラム9 鉄道唱歌	22

コラム ① 社紋「いびし」の由来



イを4つ組み合わせて「イヨ」の意味を表したのですが、この商標「いびし」がいつ頃考案され使用され始めたものが明らかではありません。現存する資料としては『伊予鉄道会社第7回報告』（自明治24年7月至同年12月）の表紙に「いびし」のマークが印刷されています。いずれにしても創業と同時か創立後間もない頃に制定を見たものと思われます。

「いびし」の名称もイの字がひし形にデザインされているところから後年誰かが命名したもので、伊予鉄といえば「いびし」、「いびし」といえば伊予鉄といわれるほど親しみをもたれ、私達伊予鉄社員の象徴となっております。

会社概要

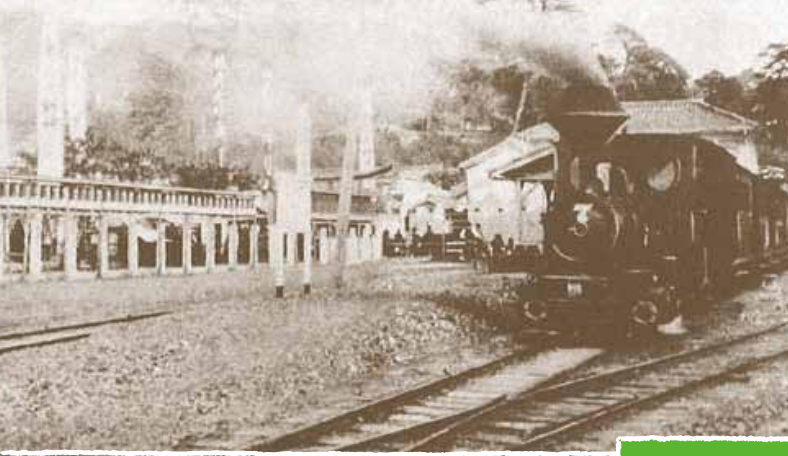


名称	伊予鉄道株式会社 (Iyo Railway Co., Ltd.)
所在地	〒790-0012 愛媛県松山市湊町四丁目4番地1 電話 (089) 948-3222
会社設立	明治20年9月14日
営業開始	明治21年10月28日
資本金	15億円
代表者	代表取締役社長 佐伯 要
主な事業内容	鉄道・軌道事業 乗合・貸切自動車事業 土地建物事業・航空代理店事業
営業キロ	鉄軌道43.5キロ(鉄道33.9キロ、軌道9.6キロ) 自動車2,461キロ
車両数	鉄軌道99両(鉄道56両、軌道43両) 自動車202両(乗合170両、貸切32両)
従業員数	790名
営業収入	10,013百万円(平成25年度)



※平成26年3月末現在





沿革



明治21年「坊っちゃん列車」運行開始・・・日本の軽便鉄道の歴史はここから。

明治21年、当社は「伊予鉄道会社」として、松山～三津間の営業を開始しました。狭軌の軽便鉄道としては日本初、民営鉄道としては日本で2番目の歴史を誇る会社です。当時運行していた車両は、夏目漱石の小説『坊っちゃん』の中で"マツチ箱のような汽車"と書かれ、松山の中学校に赴任する主人公「坊っちゃん」がこれに乗ったことから、後に「坊っちゃん列車」と呼ばれるようになった車両です。その後、運輸事業を軸に、流通・飲食・不動産・観光・レジャー・人材派遣の各分野にわたり、当社を中核とした12社をもって伊予鉄グループを形成し、地域に密着した健全な営業を展開しております。

コラム ② 木材を運ぶ起動力として誕生した鉄道

明治21年、松山～三津間の鉄道が誕生しましたが、これは小林信近らの発起によるもの。もともとは、木材を三津の港に運ぶのが目的でした。廃藩置県後、小林は面河村の官林を譲り受け、大阪方面へ木材の積み出しを行っていました。しかし当時、松山から三津浜の間は道路事情が悪く、運搬費も大阪までの海上運賃より高くついたので。小林は、交通機関の改善の必要を痛感し、軽便鉄道の敷設認可を鉄道局へ申請。最初は、田舎者が我が国にまだない軽便鉄道を敷設するなど正気の沙汰でない…となかなか聞き入れてはもらえませんでした。しかし、小林はあきらめることなく、計画の有用性・実現性を認めてもらう努力を重ね、ようやく受理されました。運行開始当時は、遠近から汽車見物に来る人が多く、中には機関車の威力に感嘆し、礼拝する人もいたといえます。いかに当時の人々が驚異の目を見張ったかを知ることができます。

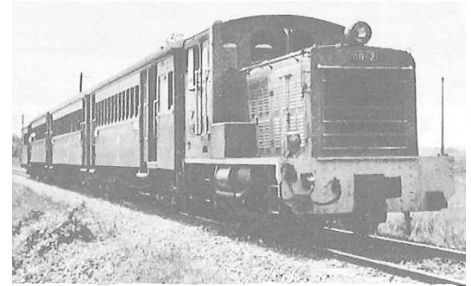
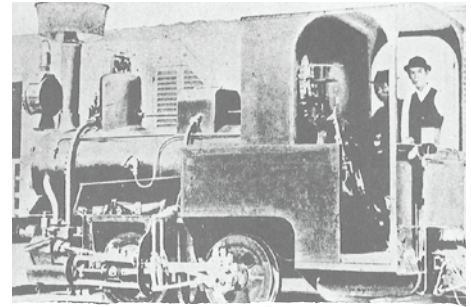
小林はこれ以外にも、松山商工会議所や五十二銀行（現伊予銀行）の設立をはじめ、水力電気事業、高浜港開港など、松山の経済基盤の土台を作り、県経済界の先覚者として活躍。また、県の役人や県議などを務めるなど、地方行政にも携わり、地域発展に身を捧げました。



初代社長 小林信近

年表

鉄道 路線拡大	明治	20 伊予鉄道会社創立	
		21 営業開始 (松山～三津)	
		25 三津～高浜営業開始	
		26 松山～平井営業開始	
		29 伊予立花～森松営業開始 (S40廃止)	
		32 平井～横河原営業開始	
		33 南予鉄道 (松山～郡中) 買収 道後鉄道 (古町～道後～一番町) 買収	
		44 古町～道後～一番町が蒸気機関車から電車に切替	
	電力事業	大正	5 伊予水力電気(株)と合併し、 伊予鉄道電気(株) に社名変更
			10 松山電気軌道(株) (城南線・本町線の主要部分) 買収
		11 土地建物事業の開始 (土地建物の賃貸開始)	
昭和		6 高浜線電化	
		14 郡中～郡中港営業開始	
		17 配電統制令により電力部門分離、 伊予鉄道(株) として再発足	
		19 三共自動車(株)と合併し、 バス事業(乗合・貸切) 開始	
		20 松山空襲により被害(翌日より運転再開)	
		22 松山市駅前～南堀端複線化	
ディーゼル化 電化			25 郡中線電化
		28 四国霊場八十八ヶ所順拝バス 開始	
		29 横河原線が蒸気機関車からディーゼルに切替	
		37 本町4丁目～6丁目営業開始	
		42 横河原線電化	
		46 伊予鉄ターミナルビル竣工 、百貨店事業開始	
		48 伊予鉄市駅西駐車場営業開始 (55年立体化)	
		52 伊予鉄道本社ビル竣工	
		55 伊予鉄市駅西駐車場立体化	
		56 高浜・横河原線直通化	
バス事業の発展	61 道後温泉駅改築 (創立百周年事業)		
	平成	2 高速バス 運行開始	
		3 郡中線日中15分毎運行	
		5 CTC (列車集中制御装置) 運用開始	
		6 ATS (自動列車停止装置) 運用開始 い～カード (磁気式プリペイドカード) 運用開始	
		9 衣山～古町高架化	
		10 鉄道線全駅に自動券売機設置 松山市駅に自動改札機設置	
		13 サービス向上施策展開 松山市駅前再開発事業 完成 (ターミナルビル増築・松山市駅改修完全バリアフリー化) 坊っちゃん列車復元運行 開始	
		14 超低床式軌道電車 (LRT型) 導入 バスロケーションシステム稼動	
		15 南斎院整備工場竣工	
鉄道の近代化		16 電車・バス総合情報システム稼動 マドンナバス (まつやま観光回遊バス) 運行開始	
		17 古町駅改修、拠点駅化 ICい～カード 運用開始	
		18 梅本駅改修、拠点駅化	
		20 松山城天守閣等の指定管理業務受託	
		21 三津駅改修、拠点駅化 低公害車両 (3000系鉄道車両) 導入	
		22 低公害車両 (ハイブリッドバス) 導入	
		24 3000系鉄道車両全10編成 (30両) 導入完了 新型CTCに更新 創立125周年記念事業展開	
		25 松山城関連施設の指定管理業務が拡大 (二之丸史跡庭園、松山城堀之内地区) 太陽光発電事業への参入	
		26 土橋駅改修	
	サービス向上施策で 運輸事業の安定基盤確立へ		





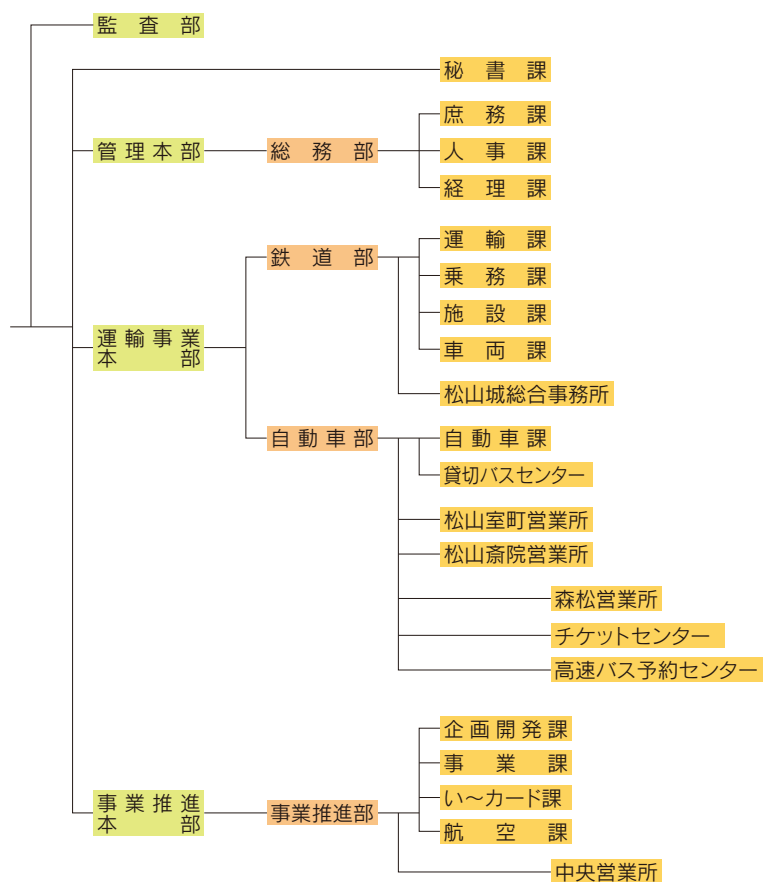
組織・人事・経理



■ 役員 (平成26年6月25日現在)

代表取締役社長	佐伯 要
代表取締役副社長	清水 一郎
専務取締役 (管理本部担当)	白石 恒二
常務取締役 (事業推進本部担当)	石司 秀利
取締役	関 啓三
取締役	柏谷 増男
取締役 (運輸事業本部担当)	玉井 伸二
取締役	森田 浩治
取締役	横山 繁紀
取締役 (鉄道担当)	中尾 均
取締役 (総務担当)	逸見 雅一
常勤監査役	阿部 信
監査役	一色 昭造
監査役	一色 哲昭

■ 組織図 (平成26年7月1日現在)



人事制度

人事制度については、「人」と「組織」を活性化し、業績を高める人事・賃金制度の構築を目的とした「賃金制度」を導入しています。この制度は「人事評価制度」を反映させるとともに、職種や職責に応じた賃金水準の設定や生活を考慮したものとなっています。

社員教育

企業とは人材の集合体であり、企業の競争力は人材の力の差です。特に変化の激しい今日は、人材の総合力が問われています。

教育訓練計画では、新入社員を対象にした入社時研修や入社半年後の追指導研修のほか、各階層別に教育を実施しております。高品質なサービスを提供するべく、社内に接客サービスマナーインストラクターを養成して、お客様へのサービス、接客マナーの向上教育に特に力を入れております。さらに、平成19年4月より導入した「社外モニター制度」により、接客に関する客観性ある評価を多方面からいただくとともに、「褒めるカード(い〜スマイルカードシステム)」を実施することで、良い面を伸ばし、評価することにつなげています。



各種研修により、従業員の能力開発を行っています。

従業員

人数	平均年齢	平均勤続
790人	40.8歳	13.1年

■貸借対照表(平成26年3月31日現在)

単位:百万円

科目	金額
〔資産の部〕	
流動資産	6,023
固定資産	33,690
資産合計	39,713
〔負債の部〕	
流動負債	6,089
固定負債	9,991
負債合計	16,080
〔純資産の部〕	
株主資本	19,403
評価・換算差額等	4,229
純資産合計	23,632
負債及び純資産合計	39,713

百万円未満切捨

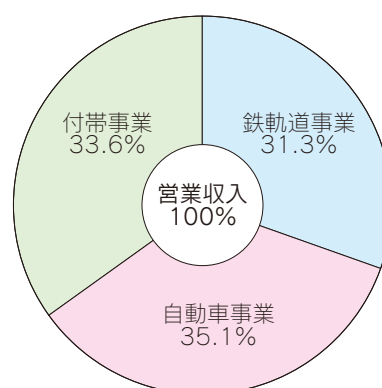
■損益計算書(平成25年度)

単位:百万円

科目	金額
営業収益	10,013
営業費	9,045
営業利益	968
営業外収益	228
営業外費用	107
経常利益	1,088
特別利益	330
特別損失	180
税引前当期純利益	1,239
法人税、住民税及び事業税	359
法人税等調整額	84
当期純利益	795

百万円未満切捨

■営業収入百分比表



■株式の状況

発行可能株式総数 60,000,000株

発行済株式総数 30,000,000株
(自己株式含む)

株主数 3,115名

コラム ③ 野球拳のはじまり

大正13年秋、高松屋島球場で実業団親睦野球が行われ、伊予鉄チームは善戦健闘も空しく、8-0で涙をのみました。その晩、高松の旅館で懇親会が催されましたが、グラウンドでの敗戦をお座敷の余興で仇をとり、名誉挽回しようと秘策をねりました。伊予鉄軍副監督であり、野球タイムスの主筆であった前田伍健先生(元伊予鉄幹部社員)が、急きょ別室に選手を集め、即席で作詞、作曲した踊りをコーチし宴席で踊ったのが野球拳のはじまりです。

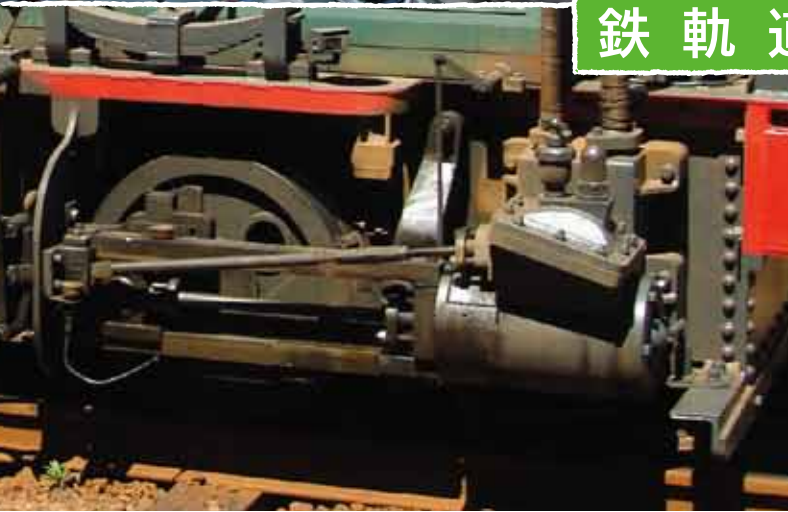




軌道と鉄道が交差する「ダイヤモンドクロス」(大手町駅)



鉄軌道事業



「ひと」を運び、「まち」をつなぐ。安全・安心な公共交通機関として

鉄道事業は、松山市街地を中心に松山北部の松山観光港に向かう高浜線、松山南部を經由して伊予市の郡中港に向かう郡中線、松山市の道後平野を横断して東温市の横河原に向かう横河原線の3路線を運行しています。軌道事業は、松山城を中心に周囲を循環する環状線、JR松山駅前から道後温泉を結ぶJR松山駅前線、ターミナル駅である松山市駅(いよてつ高島屋前)から道後温泉を結ぶ松山市駅線、本町6丁目から道後温泉を結ぶ本町線の4路線を運行しています。

年間の輸送延べ人数は、鉄・軌道あわせて約1,842万人。安全で環境にやさしい交通機関として、市民の皆さまや遠来のお客様にご利用いただいています。

■電車エリア

松山市駅を中心とした、東温市・松前町・伊予市等も含む松山市近郊全域



●●●●● 路面電車 ●●●●● 郊外電車

■路面電車路線図(主要な電停)



■基礎データ

平成25年度

	鉄道	軌道
営業キロ(キロ)	33.9	9.6
車両数(両)	56	43

■鉄軌道事業運輸成績

平成25年度

	鉄道	軌道
車両走行キロ(千キロ)	4,074	1,325
輸送人員(千人)	11,558	6,866
同上一日平均(千人)	31	18
旅客運輸収入(百万円)	2,081	818

人とシステムの両輪で、かけがえのない命を運ぶ

運転保安度の向上を目的に列車運行管理システム「CTC(列車集中制御装置)」と、「ATS(自動列車停止装置)」を導入しています。また、運輸事業の最大の使命である「安全」については、平成18年に「安全管理規程」を策定し、経営トップからすべての従業員まで、安全に対する意識を一層確実なものとしています。



駅から街へ

駅から街へ、ICい〜カード展開中

平成17年より、ICい〜カードの交通系サービス(電車・バス・タクシー)を開始し、同年に定期券機能を追加。その後、「JMB伊予鉄い〜カード」、「IC機能付きローズカード」、「愛媛FCい〜カード」とカードの種類もさまざまになり、お客様の生活スタイルに合わせてお選びいただけるようになりました。ご利用可能箇所も伊予鉄グループ指定店舗をはじめ順次拡大し、おかげさまで現在発行枚数は約60万枚を超えています(平成26年3月末現在。ローズカード(IC機能付)含む)。



半世紀ぶりに甦った坊っちゃん列車

平成13年10月、「坊っちゃん列車」を市民の皆様の熱意により半世紀ぶりに復元、運行を開始しました。復元にあたり運行問題を解決するため転車装置を内蔵、また環境面に配慮して動力には低硫黄軽油使用のディーゼルエンジンを搭載しました。

全国でも有数の歴史的・文化的財産が多く残された松山市において、松山城、道後温泉に加えて「坊っちゃん列車」を観光の三本柱として育て、市民の皆様と観光日本一のまちづくりに取り組んでいます。



坊っちゃん列車

陸の玄関JR松山駅との結節機能を推進

松山市が進めているJR松山駅周辺整備事業に伴い、軌道線の延伸を計画しています。陸の玄関であるJR松山駅との結節機能が強化されるとともに、JR線以西からの中心市街地への交通アクセスも向上します。

コラム ④ ^{レンガ}石手川橋梁・煉瓦橋

石手川駅は、全国でも数少ない、橋の上にある駅です。さらに、この橋梁は明治26年に建設されたもので、鉄道橋としては国内現役最古です。坊っちゃん列車の時代から一世紀を超えて現役を続けています。

同駅から松山市駅方面に少し行くと、煉瓦のアーチでできた高架があります。この煉瓦橋は、石手川土手への軌道かさ上げによる橋で、明治25年頃に建設され、平成15年に松山市より景観形成重要建造物に指定されています。

また、鉄道と車道が斜めに交差しており、上部の煉瓦の積み方で角度を調整する工夫が見られ、産業・土木分野で高く評価されています。





バス事業



「サービスの向上」に終点はない

乗合バス事業は、地域の生活を支える足として松山市を中心に一般路線バスを運行しており、年間約770万人のお客様にご利用いただいています。

平成17年、松山市は国土交通省よりオムニバスタウンに指定されました。当社では、行政の「オムニバスタウン計画」と連携し、様々な施策を展開してきました。電車・バスの有機的な結合による理想的な公共交通網の構築を目的に、拠点駅（三津・古町・久米・梅本・余戸駅）を支点とするループバスを順次開設。また、バスロケーション及びICカードのシステムに蓄積されたデータなどを参考に効率的なダイヤ編成を行う一方、上屋やバスロケーション表示器の整備されたハイグレードバス停の増設など、ハード面での利便性向上を継続的に図っています。

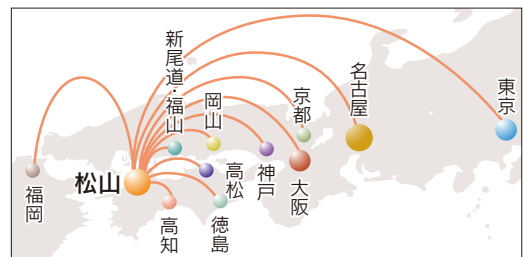
貸切バス事業は、ニーズの多様化が進む中、松山室町営業所内に設置した「貸切バスセンター」を中心としあらゆる要望に素早く対応できる体制を整えています。

■ バスエリア

松山市駅を中心とした、東温市・砥部町・松前町・伊予市等も含む松山市近郊全域



■ 高速バス路線図



■ 基礎データ

平成25年度

	乗合	貸切
営業キロ(キロ)	2,461	—
車両数(両)	170	32

■ 自動車事業運送成績

平成25年度

乗合	自動車走行キロ(千キロ)	10,943
	輸送人員(千人)	7,793
	同上一日平均(千人)	21.3
貸切	旅客運送収入(百万円)	2,815
	自動車走行キロ(千キロ)	1,413
	旅客運送収入(百万円)	399

ビジネス、観光を支えるバス



都市間高速バス

割安な運賃で、ダイレクトに街の中心部を結ぶ高速バス。現在12都市11路線を運行しています。パーク&バスライド用無料駐車場整備や増便など、順次サービスの充実を図り、お客様にご好評をいただいています。



リムジンバス

松山空港・松山観光港と松山市内とを結ぶリムジンバス。大きな手荷物はトランクルームに収納し、目的地までリクライニングシートでゆったり座れます。皆様のビジネスや観光のアクセス利便性向上に貢献しています。

行政との連携によるバス



松前町ひまわりバス

平成20年、伊予郡松前町と連携し、町内の公共施設や商業施設、交通空白地帯を結ぶ「松前町ひまわりバス」を開設。地域に密着した柔軟なサービスを提供しています。

環境にやさしいバス



低公害車両の導入

平成19年、天然ガス充填施設「松山エコ・ステーション」(写真)のオープンにあわせ、排出ガスがクリーンなCNGノンステップバスを導入。また平成22年には四国初となるハイブリッドノンステップバスも2両導入しました。

コラム ⑤ 四国八十八ヶ所今昔

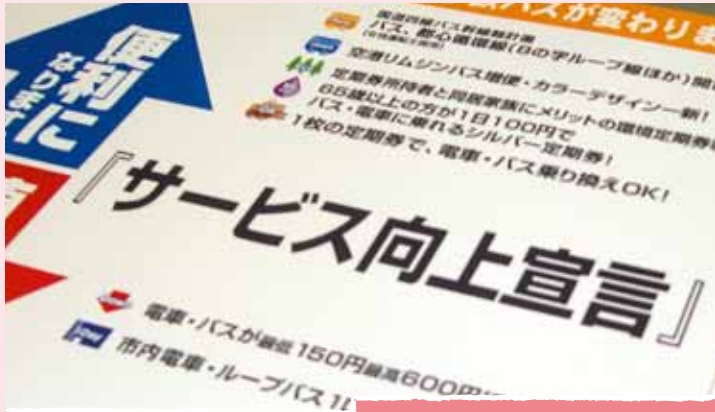
「お遍路さん」の名で親しまれている四国霊場八十八ヶ所巡りの起源は、弘法大師の入寂(835年)後、その弟子たちが大師を慕ってその遍歴の後を辿ったことによるものといわれています。

四国八十八ヶ所順拝バスは、伊予鉄道が全国に先駆けて企画実行したもので、昭和28年4月26日に記念すべき1号車が出発しました。当時、四国遍路の旅といえば自動車や路線バスを乗り継ぐため、どんなに効率よく廻っても日程が1ヶ月程度必要でしたが、順拝バスの誕生により15日短縮されました。

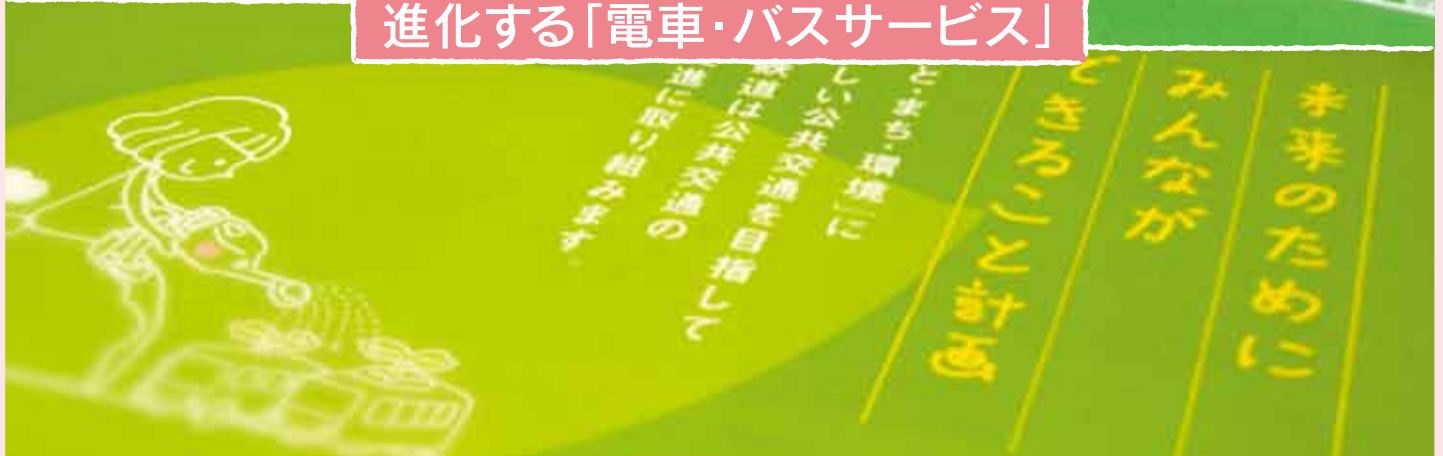
初年度は1台、12年目には100台、その後も年を追って飛躍的に増加を続け、今日では多くの方々を安全に輸送し、おかげさまで平成24年に運行60年を迎えました。全国各地のお客様からご好評をいただいております。



四国八十八ヶ所順拝バス(記念すべき第1回参加者)



進化する「電車・バスサービス」



サービス向上宣言

平成13年～平成15年

▶▶▶ 運輸事業の再生

お客様のニーズに具体的に取り組みました。

- 待ち時間のイライラ解消!**
 - バスロケーションシステムの導入
- バス・電車を もっと使いやすく**
 - 郊外電車・バスの最終便の延長
 - 100円・150円均一ループバス、電車連絡ループバス、週末ナイトバス、スキップバスの運行
- いよてつ高島屋との連携**
 - 3,000円以上お買い上げの方に「お帰り切符」
- 環境への配慮**
 - 環境定期券の導入
 - 坊っちゃん列車の燃料は、環境に優しい低硫黄軽油を使用
- 高齢者・身体障害者への配慮**
 - 駅のバリアフリー化
 - 低床車両の導入
 - シルバー定期券発売
- 観光客の期待に応じて**
 - 坊っちゃん列車(2両)の運行
 - 1Dayチケット発売
- 運賃の値下げ**
 - 最高運賃の値下げ
 - わかりやすい50円刻みに

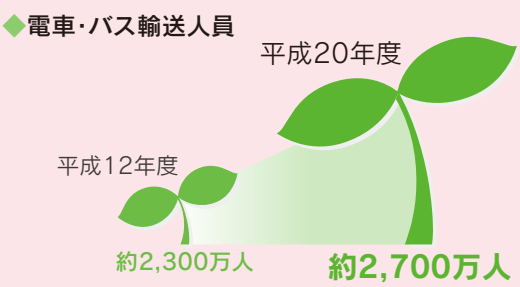
いきいき交通まちづくり宣言

平成16年～平成20年

▶▶▶ 運輸事業の安定基盤確立

行政や住民の方と連携し、交通施策に取り組みました。

- 1 交通拠点駅構想の推進と路線再編**
 - 古町・三津・梅本駅の拠点整備 (バリアフリー化・ターミナル化) (バス路線新設)
- 2 交通IT化の推進**
 - リアルタイム運行情報の可視化 (バスロケーションシステム) (電車・バス総合情報システム)
 - ICカードシステム (交通系グループカード化) (地域カード化)
- 3 行政のまちづくりとの連携**
 - オムニバスタウン計画 (PTPS(公共車両システム)の導入など)
 - 「坂の上の雲」のまちづくり (まつやまドンナバス運行など)



こうした取り組みの結果、おかげさまでご好評いただき、公共交通利用者増加という結果が得られました。

駅・バス停をますます便利に

◆三津駅を改修、交通拠点駅へ



【交通拠点駅構想】▶▶▶ 郊外に結節点機能を強化した交通拠点駅(郊外電車駅・バスターミナル)を整備し、そこを支点とするバス路線を運行することで、電車・バスの有機的な結合を図り理想的な公共交通網の構築を目指します。

- 駅舎・周辺施設のバリアフリー化、東口新設
- 駅と周辺地域を結ぶバス路線の開設
- 「乗り継ぎ空間のバリアフリー化」「電車・バスのリアルタイムな運行情報発信」で乗り継ぎスムーズに



◆待ち時間も快適に

- ハイグレードバス停化
(上屋・ベンチ・バスロケーションシステムの設置)



◆パーク&バスライドでアクセス便利に

- 高速バス専用駐車場の増設、利用路線拡大

電車・バスに乗ってみる

◆ICい〜カードがますます便利に

- 利用可能場所・機会の拡大
- シルバー定期がICカードに

◆もっと分かりやすく

- 分かりやすいダイヤへの改正
- 公式webサイトに「地図から運賃・時刻表検索」掲載

◆行政のまちづくりとの連携

- 電車・バスを利用した観光モデルコース提案
- 松山城関連施設の管理・運営、連携施策の推進



【ICい〜カードのここがい〜】

- 便利!** 小銭不要。カードリーダーにタッチするだけ
- お得!** 電車・バスのお得な割引サービス
- 優しい!** チャージしてくり返し使えるから環境にも優しい
- 安全!** 偽造・変造されにくいのでセキュリティ面も安心
- 安心!** お客様登録すれば、万一紛失の場合でも再発行OK

未来の環境のために

◆「環境にやさしい」を知っていただくために

- 小学生を対象にした環境学習

◆さらに環境にやさしくするために

- 鉄道車両の更新・低公害バスの導入

◆車内・待合空間をもっと安全に・快適に

- マナーアップキャンペーンの実施
- 社外モニターの充実化
- 中学生を対象にした公共交通マナー学習



マナーアップ啓発ポスター



「ひと・まち・環境」にやさしい
公共交通を目指して

for YOU

ユニバーサルデザインを実現

駅・電停のバリアフリー化

- スロープ
- ラクーブ(車椅子用電車乗降装置)
- 視覚障害者誘導用ブロック・音声誘導装置
- 軌道敷内石畳の平坦化

ホーム及びスロープの弾性塗装化

電停へのベンチ新設

電停の有効幅員の拡幅

車両の導入

- 低床車両(超低床式軌道電車、ノンステップバス)
- 「おもいやりゾーン」を設けた新型鉄道車両
 - ▶ 従来の2倍強の優先座席
 - ▶ 座席位置の明確化(座席・吊り革の色分け)

あらゆるバリアを解消するために

「わかりやすい」システムの構築

- わかりやすいダイヤ編成
(運行ルートの整理・等ピッチ運行ダイヤ)
- わかりやすい情報提供



ラクーブ



新型鉄道車両「おもいやりゾーン」

for the EARTH

伊予鉄道が変わる→未来が変わる

低公害車両の導入

- 3000系鉄道車両(写真=上)・超低床式軌道電車
 - ▶ ブレーキをかけるときに発生する電気を電線に戻す「回生ブレーキ」
- CNG(圧縮天然ガス)バス
 - ▶ 排気ガスクリーン、二酸化炭素排出量を従来より約10%減
- ハイブリッドバス(写真=下)
 - ▶ 燃料消費を従来より約10~15%減
 - ▶ 二酸化炭素排出量を従来より9~17%減



エコドライブの徹底

次のような「省エネ運転の五原則」を設定し、全社をあげてエコドライブに取り組んでいます。

- アイドリングストップの活用
- アクセルの踏み込みは、少なく、ゆっくり
- 早めのシフトアップで燃料節約
- 波状運転の厳禁
- 減速は、早めの「エンジンブレーキ」で



運転席横のステッカーで常に啓蒙を図っています。

「公共交通を利用する＝エコ」を知っていただくために

近年は利用者の公共交通離れが進み、それに伴い電車・バスに乗ったことがない子供たちが増えています。そこで、子供たちに電車・バスをもっと身近に感じてもらい、さらには環境という面から公共交通について考えてもらうために、「エコ交通まちづくり教室」を実施しています。

この学習では、地球温暖化のしくみとその予防のためにできることについての授業や、実際に電車、バスに乗ってみる体験学習を行っています。この学習を通じて、子供たちの環境に関する知識が向上し、環境に配慮した交通まちづくりへの参加意識が高まると期待しています。



「エコ交通まちづくり教室」

CSR推進 2つのアクション

- 「ひと」(様々なステークホルダー)に関連する取り組み…『いよてつ い〜スマイル アクション』
- 「環境」に関する取り組み……………『いよてつ い〜エコ アクション』

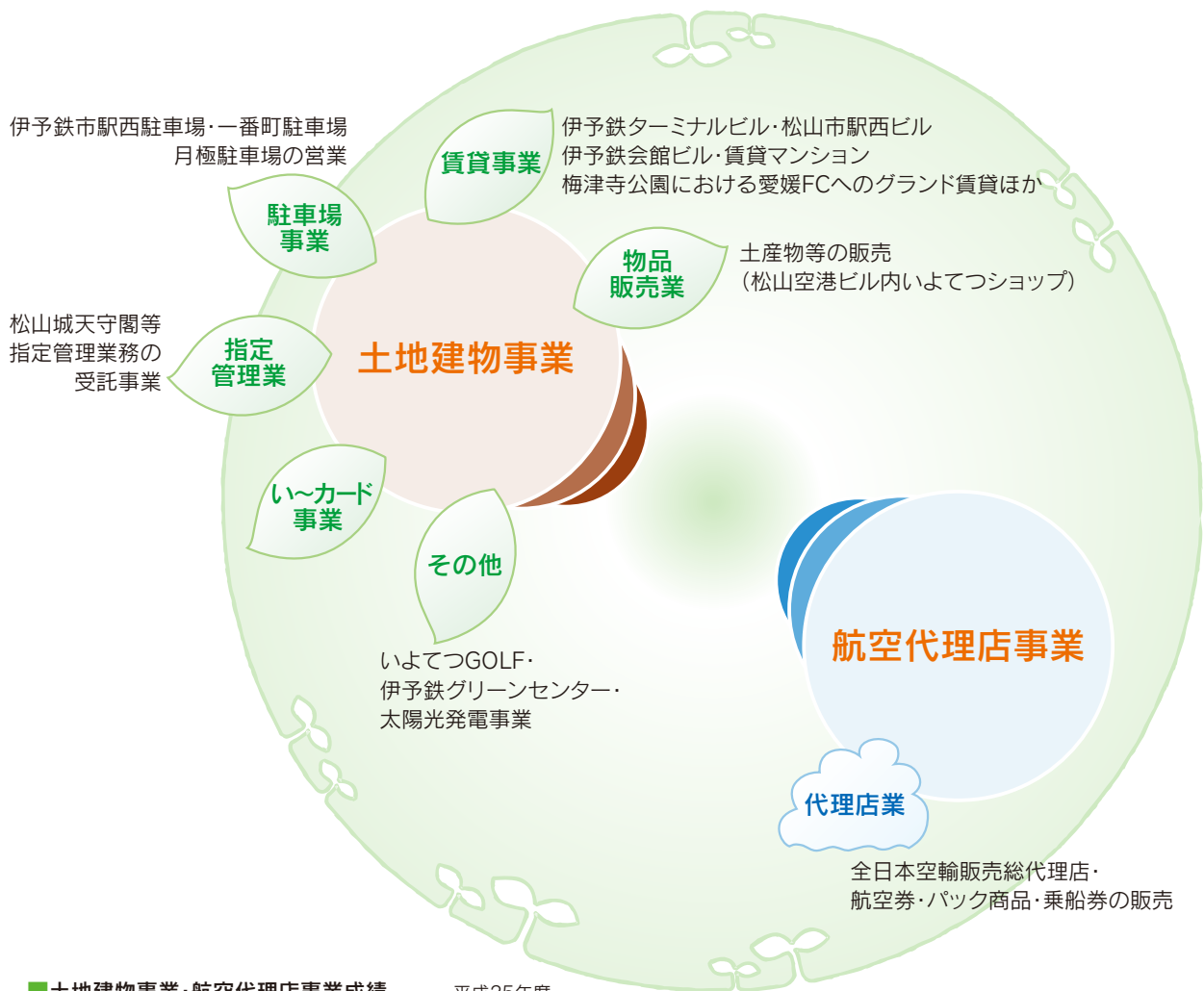
これら2つのアクションをシンボリックに表現したものがコチラ↓



このシンボルマークを活用し、CSR推進の取り組みを社内外へ情報発信していきます。



付帯事業



■土地建物事業・航空代理店事業成績 平成25年度

土地建物事業収入(百万円)	3,311
航空代理店事業収入(百万円)	42

“住”から“遊”まで、幅広くサポートする 土地建物事業

土地建物事業は、賃貸事業、駐車場事業、伊予鉄ショップ、ゴルフ練習場、観葉植物のリース営業など幅広い事業を積極的に展開し、豊かな地域社会の暮らしを支えています。

賃貸事業では、新たに平成21年3月から、南久米に久米第二ビルを建設して介護関連専門業者に賃貸し、同社により介護付有料老人ホームが運営されています。

また、平成21年5月から、南久米にある伊予鉄久米ビルを温浴事業者に賃貸し、同社により温浴施設が運営されています。さらに、梅津寺公園(旧梅津寺パーク)は、地元サッカークラブに賃貸し、練習場・クラブハウスとして利用されています。

い〜カード事業では、伊予鉄道の電車・バス、伊予鉄タクシーの交通系システムを中心としたICい〜カードに関する業務のほか、地域にある企業との加盟店展開・提携等を行い、一層のサービス充実を図っています。

いよてつGOLFでは、日本のプロゴルフ協会(PGA)ティーチングプロによるGOLFアカデミー(ゴルフ教室)や打ち放題、さらにお得なゴールデンパスポート、ジュニアパスポートなどの取り扱いを行っており、お客様それぞれのニーズに合わせた各種メニューを提供し、好評を得ています。

いよてつショップでは、「入りやすく、分かりやすく、お求めやすく」をコンセプトに、商品陳列・ゾーニングを行ない、新規商品の取り扱い開始や、見直しを行いながら販売促進に努めています。

松山市の主要な観光シンボルである松山城天守閣・城山索道等の指定管理業につきましては、松山市より受託を受け各施設の維持管理、集客の企画・イベント実施、文化財保護等の業務を行っておりますが、平成25年4月からは2期目を迎え、新たに二之丸史跡庭園などの周辺施設の受託も開始しました。

太陽光発電事業に関しましては、東温市樋口にある社有地の活用策や再生可能エネルギーの普及促進に貢献すべく、太陽光発電事業に参入しました。当社にとりましては、過去に「伊予鉄道電気(株)」として、電気を発電し、愛媛県内及び高知・徳島県の一部に電気を供給する事業を手掛けてきた歴史があり、71年ぶりに発電事業を復活することとなりました。

安全・快適な輸送サービスを提供する 航空代理店事業

航空代理店業は、松山市駅の中央営業所において、航空券・パック商品のほか、各船会社の乗船券・旅行商品の販売を行っています。多様化する運賃体系に対応し、親切で丁寧な分かりやすい説明は好評を得ています。また、各企業とインターネット予約発券システムの提携を行い利便性の向上を図っています。



いよてつGOLF



伊予鉄ショップ



いよてつ東温ソーラー発電所



中央営業所

コラム ⑥ 伊予十五万石の松山城

平成20年4月より、当社では松山城天守閣等指定管理業務の受託事業を行っています。松山城は、しずがたけ賤ヶ岳の合戦で有名な七本槍の1人、加藤嘉明が築いた四国最大のお城です。門櫓・塀を多数備え、狭間や石落とし、高石垣などを巧みに配し、攻守の機能に優れた日本一の連立式天守を構えた平山城と言われています。

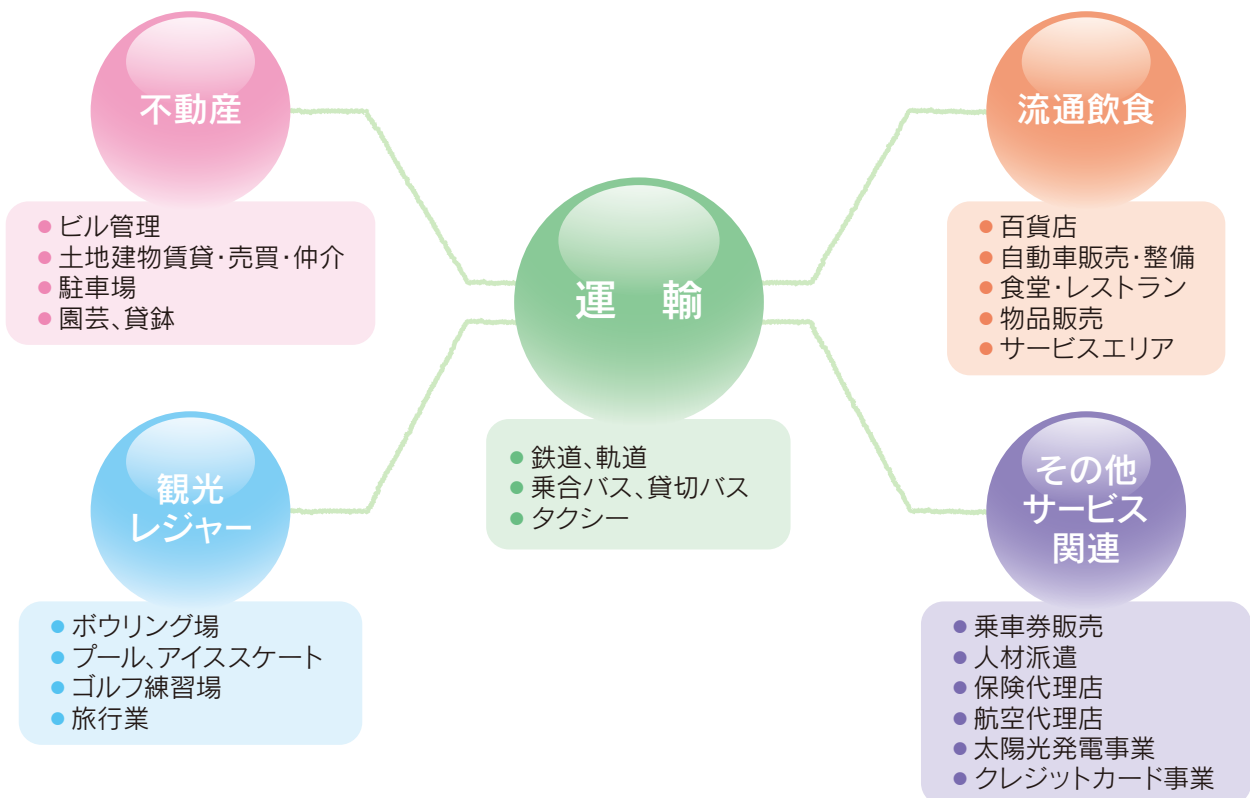
また、松山城は日本で12か所しか残っていない「現存12天守」のうちのひとつ、江戸時代以前に建造された天守を有する城郭の一つです。平成18年に「日本100名城」、平成19年には道後温泉とともに「美しい日本の歴史的風土100選」に選定されました。



伊予鉄グループ



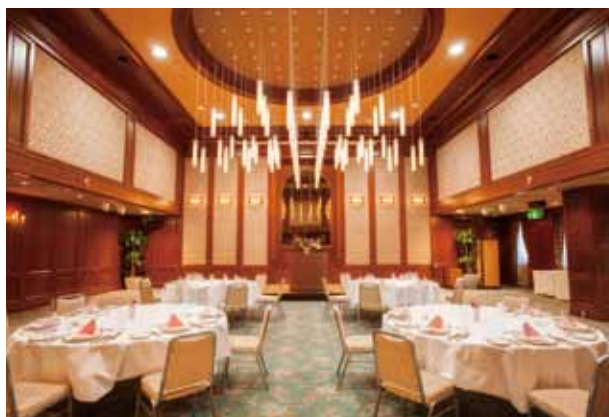
伊予鉄グループは、当社を中核に12社からなる企業集団で、グループ売上高594億円、従業員2,000名あまりを数え、幅広い事業活動を展開しています。(平成26年3月31日現在) また、地域に密着した着実な事業展開を経営目標とし、地域とともに歩み、ともに発展することを使命としております。



●伊予鉄グループ会社一覧（平成26年6月30日現在）

会社名 (所在地)	資本金 (百万円) (出資率)	略 歴	取締役社長	H26年6月末 従業員数 (名)	H25年度 売上高 (百万円)
(株)伊予鉄会館 (松山市大街道三丁目1番地1)	50 (100%)	S35.2.1 設立	今井 浩蔵	227	3,237
伊予鉄不動産(株) (松山市平和通一丁目1番地1)	40 (100%)	S37.11.5 設立 H18.10.1 伊予鉄観光開発(株)と合併	白石 恒二	39	705
伊予鉄タクシー(株) (松山市竹原二丁目3番15号)	30 (100%)	S51.6.16 設立 (伊予鉄道(株)より分社)	光長 文生	158	602
伊予鉄南予バス(株) (八幡浜市江戸岡一丁目9番2号)	80 (100%)	H元.8.8 設立 (伊予鉄道(株)より分社) H17.10.1 伊予鉄久万バス(株)と合併	関谷 俊夫	50	537
伊予鉄オート(株) (松山市南久米町241番地1)	50 (100%)	H2.3.15 設立	栗岡 覚	46	723
愛媛日野自動車(株) (松山市高岡町342番地)	10 (100%)	S25.5.1 設立	田中 邦夫	67	5,198
イヨテツケーターサービス(株) (松山市三番町四丁目9番5号 松山センタービル内)	50 (100%)	S61.4.1 設立	元屋地裕之	91	2,328
(株)伊予鉄トラベル (松山市大街道三丁目1番地1 伊予鉄会館ビル内)	30 (100%)	S45.9.10 (株)伊予鉄観光社設立 S57.7.1 (株)伊予鉄愛媛新聞観光社に社名変更 H19.1.1 (株)伊予鉄トラベルに社名変更	玉井 伸二	18	395
(株)いよてつカードサービス	75 (100%)	S38.3.13 設立 H9.4.1 日専連えひめに変更 H25.7.25 伊予鉄道の100%子会社 H25.10.1 (株)いよてつカードサービスに社名変更	石司 秀利	21	229
(株)伊予鉄高島屋 (松山市湊町五丁目1番地1)	113 (66.37%)	S44.9.1 (株)いよてつそごう設立 H13.6.1 (株)伊予鉄百貨店に社名変更 H14.3.1 (株)伊予鉄高島屋に社名変更	奥村 正綱	547	35,253
(株)いよてつ友の会 (松山市湊町四丁目4番地1 伊予鉄道本社ビル内)	20 (60%)	H13.4.2 設立	佐伯 要	5	193

(株)伊予鉄会館



いよてつ会館宴会場

昭和35年創業のいよてつ会館ビルにおいて和食・洋食・中華の宴会や専門料理店の運営をはじめ、交通の要である高速道路サービスエリアや松山空港(レストラン東雲・すし処)、松山観光港ターミナル(松山観光港名産店)、また県有施設であるとべ動物園(展望レストラン東雲)や県民文化会館(レストランオレンジ)、愛媛県立中央病院(利便施設)など、松山市内を中心に22店舗のレストランや売店を構え「心からのおもてなし」をスローガンに幅広く営業を展開しています。

伊予鉄タクシー(株)



伊予鉄タクシー本社

■車両数/小型車両61両、中型車両33両、ジャンボタクシー7両、福祉車両1両

安全で安心・快適なタクシー、利用しやすく・利用しやすくなるタクシーを目指し、「ひと・まち・環境」にやさしい公共交通として営業を行っております。伊予鉄タクシー専用電話の設置・四国初、スマートフォン配車の導入・子育てタクシー・観光タクシー・順拝タクシーなど顧客の立場に立ったサービス向上を図り、安全輸送を基に運行を行っております。

伊予鉄不動産(株)



イヨテツボウリングセンター

土地建物の売買の仲介を行っています。また、スポーツ施設として、平成29年の愛媛国体に向け選手育成も行っているボウリングをはじめ、プール・アイススケート場を営業。物品販売では、各駅のコンビニエンスストア営業のほか、オリジナル「坊っちゃん列車」グッズ、「おへんろさん」順拝用品を販売しています。その他、伊予鉄道(株)からの受託管理業務(駐車場・GOLF練習場など)を行っています。

伊予鉄南予バス(株)



伊予鉄南予バス本社

■車両数/乗合車両28両
貸切車両15両

愛媛県南予・久万地域において、通勤・通学・通院等、地域住民の日常生活を支える公共交通機関として、乗合・貸切バス事業を行っております。また、平成20年6月から高速バス大阪線、平成21年8月から高速バス名古屋線を伊予鉄道(株)から受託し、平成22年4月からは高速バス福岡線を伊予鉄道(株)と共同で運行しております。

伊予鉄オート(株)



伊予鉄オート本社

マツダ販売チャネルの「マツダオートザム伊予鉄松山」において、新車・中古車販売、自動車保険代理店業などを行っています。マツダ車ご購入のお客様に6カ月毎のメンテナンスをお得なパッケージ料金でご提供する「パック de メンテ」が好評です。また、「いよてつオートサービスセンター」では、一般整備部門に加え、伊予鉄道(株)のバス整備部門を業務受託し、一体となった効率の良い整備事業を展開しています。

愛媛日野自動車(株)



最先端のセーフティ技術搭載のトラック「日野プロフィア」

伊予鉄グループとしては最も古い歴史をもつ会社です。当初はバスの販売が主体でしたが、現在はトラック販売を主体に、自動車及び部品販売と修理を行っています。

会社創立以来、信用を重視して業務に努めるとともに、長年にわたり経営の省力化と営業部門を重点とした人員配置に努力した結果、一人当たりの生産性、新車登録シェア及び収益性において、常に全国日野販売会社の上位を占めています。

イヨテツケーターサービス(株)



イヨテツケーターサービス本社

各種人材サービス(人材派遣・職業紹介・アウトソーシング・就職支援・教育研修)やシステム開発の事業を行っています。その他、指定管理運営事業では県内の公共施設(8施設:えひめこどもの城他)を管理運営し、民間ならではのアイデアとサービスで、たくさんの方々にご利用頂いております。四国全域、地域に密着した事業を展開し、お客さまへのサービス向上に取り組んでいます。

(株)伊予鉄トラベル



伊予鉄トラベル本社営業所

海外・国内のパッケージ旅行、航空券、JRやフェリーの切符、ICい〜カードをはじめとした伊予鉄道乗車券など、「旅の百貨店」として多種多様な品揃えで営業しています。「ナイスツアー」をブランド名とする募集旅行では、第一種旅行業者ならではの幅広い商品を企画。また順拝センターでは、団塊世代に人気の日帰りへんろや歩きへんろなど、お客様のニーズにあった旅を提供しています。

(株)伊予鉄高島屋



いよてつ高島屋

昭和46年、松山市の交通拠点である松山市駅に誕生した本格的ターミナルデパートです。平成13年、「松山市駅前周辺地区再開発事業」の一環として、伊予鉄バスターミナル跡地へ本館を増床、全館をリニューアル。売上・売場面積ともに四国最大級を誇っています。

いよてつ高島屋は、地元百貨店がもつ親しみやすさと、高島屋グループの洗練されたセンスを併せもった上質感あふれるライフスタイルをご提案してまいります。

(株)いよてつ友の会



いよてつ友の会 会員証カード

いよてつ友の会は、会員相互の親睦といよてつ高島屋でのショッピングに便宜を図る事を目的とし、現在、毎月の積立てが5,000円と10,000円の2コースをご用意。満期時の1カ月分ボーナスをはじめ各種特典が好評です。平成21年11月からは「お買物券」が会員証と一体となった新しい『会員証カード(会員証・お買物カード)』に。ますます携帯に便利でより安心・安全にご利用いただけます。

(株)いよてつカードサービス



スピカJCBカード

平成25年10月1日に「(株)日専連えひめ」から「(株)いよてつカードサービス」に社名変更し、新デザインカード「Spica(スピカ)」等の発行を行い、心機一転収支改善に取り組んでおります。新体制では、原点に戻りショッピング収益を収益の柱と位置づけ、カード会員(19万人)並びに商店街各店の加盟店様への利便性を提供する事業を、推進したいと考えています。今後におきましては、引き続き厳しい経営環境と予想されますが、増収と経費の効率化を進めながら、伊予鉄ブランドにふさわしいカード会社を目指してまいります。

コラム ⑦ 伊予鉄道発祥の地「松山市駅」の足跡

松山の陸上交通拠点、また当社の“顔”として、125年以上の歴史を刻んできた松山市駅。松山～三津間の発着駅として、明治21年に「松山」という駅名で開設しました。その後、明治22年に「外側」とがわ、明治35年に「松山」へと改称。昭和2年、鉄道省・讃予線(のちに予讃線に改称)の松山延長に伴い、当社は「松山」の駅名を鉄道省に譲り、現在の「松山市」という駅名となりました。その後、当駅は昭和46年の百貨店開業に伴うターミナル化により一段と飛躍。現在も、松山で最も賑わう駅として、「市駅」と呼ばれ親しまれています。



地域の発展を願う思いから誕生した伊予鉄道は

その理念を継承し、幾多の苦難を先人たちの

知恵とたゆまぬ努力で乗り越え

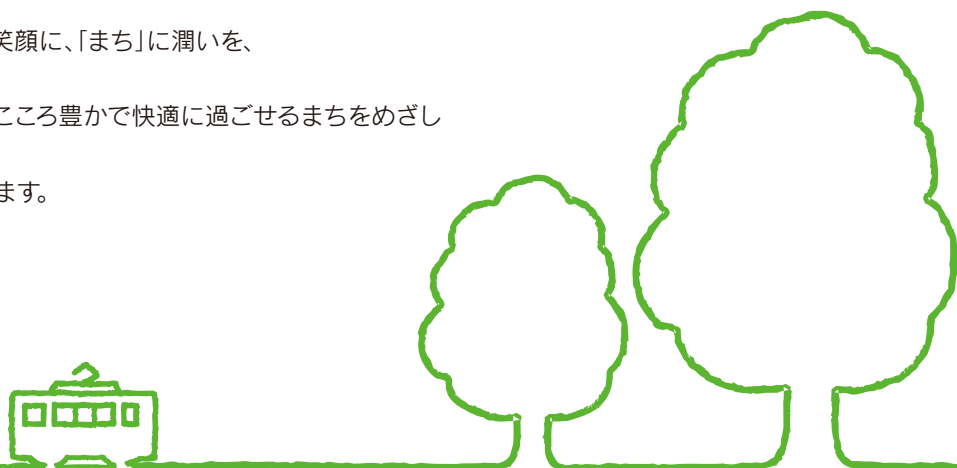
そして、何よりも地域の皆さまに支えられ

125年を越える歴史を積み重ねてきました。

これからも、「ひと」を笑顔に、「まち」に潤いを、

そして「環境」を育み、こころ豊かで快適に過ごせるまちをめざし

伊予鉄道は、走り続けます。



続けます 安全・安心 あしたのために

コラム ⑧ 現存する坊っちゃん列車 (1888年ドイツ製甲1形機関車・客車)

明治21年に日本初の軽便鉄道として汽笛一声をとどろかせ、60年余り松山平野を走り続けた坊っちゃん列車。昭和42年10月14日、日本国有鉄道から鉄道記念物に指定されました。また、昭和43年3月5日、愛媛県から有形文化財に指定されました。

現在、現存する最古の軽便機関車として、梅津寺公園内に展示しています。



コラム ⑨ 鉄道唱歌

伊予鉄道は、日本の私鉄の中でも珍しく鉄道唱歌を持っています。作られたのは、創業20周年を迎えた明治41年の秋です。鉄道唱歌の作者で有名な大和田建樹氏が、愛媛県の宇和島出身であったこともあり、作詞を手掛けました。歌詞では松山を中心に伊予鉄道の沿線が広範囲に紹介されています。

唱歌は25番までありますが、現在、会社行事などの際に出席者により歌われるのは1・2・6番です。

- | | | |
|--|--|--|
| 一、名も常磐なる松山の
市街を中に取り巻きて
葛の如く縦横に
蔓さし延ばす伊予鉄道 | 二、先ず乗り出だす高浜の
港の海の朝げしき
船を押し連れて出でて行く
船は落ち葉か笹の葉か | 六、伊予鉄道の本社ある
松山市駅は昼も夜も
出て入る列車の数繁く
行き交うバスの絶え間なし |
|--|--|--|

続けます 安全・安心 あしたのために



〒790-0012 愛媛県松山市湊町四丁目4番地1
TEL089-948-3222

<http://www.iyotetsu.co.jp/>

